

事務事業評価表 平成22年度

政策 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実

施策 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造

基本事業 文化・歴史遺産の保存と継承

事業名 **ふるさと江別塾 ～ 江別を学ぶ」開催事業**

[5232]

部名	教育部	事業開始年度	平成 - 年度	実施計画事業認定	対象
課名	郷土資料館	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
<p>対象</p> <p>(誰、何に対して事業を行うのか) 市民</p>	<p>手段</p> <p>(事務事業の内容、やり方、手段) 郷土史を学ぶために各種講座を開催する。 子供学芸員カレッジ(小学生) 再発見 江別探訪(一般) ふるさと歴史講座(一般) 歴史を学ぼう(小中学生 一般)</p>
<p>意図</p> <p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 市民に郷土の歴史に対する理解を深めてもらう</p>	

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	市民	人	123,537	123,054	122,568	122,568
対象指標2						
活動指標1	事業開催回数	回	34	37	33	30
活動指標2						
成果指標1	事業参加者数	人	1,274	1,457	1,525	1,100
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	314	312	306	317
正職員人件費 (B)		千円	4,606	4,597	4,564	4,580
総事業費 (A) + (B)		千円	4,920	4,909	4,870	4,897

費用内訳	
21年度	報償費 169千円、需用費 32千円、使用料及び賃借料 105千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	大人から子供まで様々な事業を通してふるさと江別を学んでもらう	事業を取り巻く環境変化	
--------	--------------------------------	-------------	--

21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・
根拠は？

市民に地域の歴史を認識してもらい、市政を含み、市民意識の向上をはかることができる。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・
根拠は？

郷土資料館の所蔵資料等を活用して、郷土を学ぶ場を市民に提供するものである。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・
根拠は？

施設の狭隘さから事業に広がりを持たせづらい面もある。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

ボランティアの育成。学芸員の事業へ関与。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・
根拠は？

平成21年度から再発見江別探訪史跡めぐり（借り上げバスを利用）のバス代相当額を参加料として徴収する。